

送信票

建築研究所ニュース

第70号



送信先

担当者 殿

平成15年 7月28日

枚数: 7枚(本紙含む)

(内容の問合せ先)

独立行政法人 建築研究所

所属 国際地震工学センター

氏名 八木勇治・原辰彦

電話 029-864-6755 or 6644 (直通)

E-mail yagi@kenken.go.jp

7月26日宮城県北部で発生した地震の破壊過程と前震・余震との関係

2003年7月26日07時13分(日本時間)に宮城県北部で気象庁マグニチュード(Mj)6.1の地震が発生しました。同地震の詳細な破壊過程(断層面上での動的な破壊伝搬過程)を震源近傍(K-net)とグローバルネット(IRIS)の地震計記録に最新の手法を適用することにより推定しました。このような詳細な破壊過程を調べることにより、同地震と前震・余震との関係を明らかにすることが可能となります。同地震の震源メカニズム解は、東北地方の内陸で観測される典型的なタイプである東西圧縮の逆断層型です。主な破壊は、震源から北側に約8km伝搬しており、最大すべり量は約1(m)となります。同地震の前7時間前に発生した地震(Mj5.6)の震源領域を避けるように破壊が伝搬している様子が明らかになりました。これは、7時間前に発生した地震より、同領域はすでに歪みを解放したためと考えられます。また、本震で破壊した領域は前震により応力が負荷された領域であると言えます。一方で、最大余震は、破壊が停止した領域で発生しています。このことより最大余震は、本震により応力が負荷された領域で発生したことが推測できます。詳しい情報は、下記のWEBサイトを参照してください。

http://iisee.kenken.go.jp/staff/yagi/eq/east_honshu20030726/east_honshu20030726-j.html

なお、上記のページには建築研究所のWEBサイトのトップページにリンクされています。

独立行政法人 建築研究所

Building Research Institute

〒305-0802

茨城県つくば市立原1番地

電話 029-864-2151(代表)

FAX 029-879-0627(総務課)

☆ご面倒ですが掲載の折には、その記録を留めるため、上記問い合わせ先へお知らせ下さい。